

3 番 和 田

受付番号2番、質問議員3番、和田成功。

件名、「人口減少対策に子育て支援の更なる充実を」。

人口減少社会において、当町も令和3年11月1日現在の人口は、9,819人となり、少子高齢化及び生産年齢人口の減少に歯止めがかからない現状がある。

当町の子育て支援等をさらに充実させ、次代を担う子どもたちが健やかに育つことができる環境づくりや、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境整備など、「子どもに優しいまちづくり」を推進することにより、町のイメージアップなどにも寄与するものと考え、昨年につき、改めて問う。

1. 令和2年第4回定例会の一般質問において、幼稚園・保育園・こども園の3・4・5歳園児への完全給食実施に向けて取り組む考えがあるかどうか質問した際には、「慎重に検討する」との回答であったが、現在の検討状況は。

2. 子育て支援施策等のさらなる拡充が重要であると考えているが、今後の具体的な取組の計画は。

3. 当町として、子育て支援制度等をさらに充実させ、「子どもに優しいまちづくり」を積極的にPRして、子育て世代を中心に移住定住促進に取り組む必要があると思うが、考えは。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、和田成功議員から「人口減少対策に子育て支援の更なる充実を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「令和2年第4回定例会の一般質問において、幼稚園・保育園・こども園の3・4・5歳園児への完全給食実施に向けて取り組む考えはあるかどうか質問した際には、「慎重に検討する」との回答であったが、現在の検討状況は」についてであります。令和2年第4回定例会においては、幼児期の育ちの違いによる個々の必要量が異なることから、一律の配食が難しいことや、フードロスの発生が懸念されることを理由とし

て、慎重な検討が必要と回答いたしました。その後、完全給食の実施を見据えて、保護者、子ども、町、それぞれの立場におけるメリット・デメリットの洗い出しや、保護者への聞き取り等を踏まえ、令和4年度から完全給食の実施に向けて検討を進めております。

次に、2点目の御質問の「子育て支援施策等のさらなる拡充が重要であると考えているが、今後の具体的な取組の計画は」についてであります。町では、就学前までが県補助対象とされている小児医療費助成を町単独で中学校修了までに拡充していることや、紙おむつの購入費助成、出産祝い金の支給などを近隣に先駆けて実施してきたところです。さらに、平成25年度には放課後児童クラブを、平成29年度には幼保連携型認定こども園を開設するなど、その時々ニーズに対応した施策を展開してまいりました。

今後は、それぞれの質の向上を図るため、まずは、令和4年度から放課後児童クラブの負担金について、低所得者世帯や独り親世帯のための減免制度の創設、保育園、認定こども園における町内在勤者などの町外園児の受入れや、育休からの復職や出生などによる年度途中における乳児の入園の受皿について余裕を持たせるなど、きめ細かなニーズに対応するための施策を推進してまいりたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「当町として、子育て支援制度等をさらに充実させ、「子どもに優しいまちづくり」を積極的にPRして、子育て世代を中心に移住定住促進に取り組む必要があると思うが、考えは」についてであります。現在、町では、新築祝い金をはじめとした移住・定住制度や、保育料の町独自減免をはじめとした子育て支援制度など、山北町ならではの施策を掲載した子育てや住まいづくりを応援する支援制度のパンフレットを作成し、PRを行っているところであります。

また、東山北1000まちづくり基本計画の重点地区に位置づけられている水上地区では、水上住宅の再編整備に着手し、将来的には、向原保育園を同地区内へ移転することで、地域ぐるみで子育て世代増加の新たな起爆剤となるよう、事業を進めていく予定であります。

一方で、紙おむつの購入費助成など、町独自の子育て支援施策が好評を得ていることや、移住・定住者からの「山北町のここがよい」、「移住・定住

の決め手はこれだった」などの当事者からのロコミによる発信力、影響力にも着目し、町の魅力の掘り起こしを行ってまいります。

議 長 3番、和田成功議員。

3番和田 それでは、再質問をさせていただきます。

今の町長からの答弁を聞きまして、1年前とは大分違うなど。これで、再質問を終わりにしてもいいぐらいな前向きな答えがあったのかなと思いますけど、1年前を振り返りながら、少し質問させていただきたいと思います。

1年前、本当に慎重に検討していきたい、やらないとは言っていないというような苦しい答弁だったかと思うんですけど。検討状況ですね、そのときに、まず、無償なのか、有償なのか、そこから始めなきゃいけないというような答弁がありましたけど、その辺については、どのような検討が進んでいるのか、御説明願います。

議 長 副町長。

副 町 長 確かに、無償なのか、有償なのかという議論は前にさせていただきました。ですが、その関係で、1年間ずっと検討してきて、いろんなケース、かかる経費とか、検討してまいりました。一方で、防災の関係、道路等のインフラの関係等の町の行政需要というのは、非常に多いものでございます。ですから、その中で、どこを優先にしているのかというところで、やはり将来の日本を、将来の山北を担う子どもたちのために税金を使う、貴重な税金を使う、町民のための税金を使うということは必要であるとは考えていますけれども、ただ、全て使ってしまうと、財政の再建団体にするのは、山北はできません。

ですから、有償なのは検討なのかというのは、平成4年度の、今、財政の予算を編成している途中、最中でございます。大体、歳入の見積り額と歳出の要求額で、5億円ほど歳出が多いということでございます。

令和じゃない、ちょっと。平成4年と。

すみません。平成ではございません。令和4年度です。令和4年度、大体、5億円ほど差があると。差というのは、歳出のほうが5億円ほど赤字になってしまうということなので、一部有料になることがあるかもしれません。

ただ、これからやっていく中で、減らせるものは減らして、どういう形で、

町民のために、町のためになるようなことを町長に判断していただいて、子育てももちろん優先順位は高いですけど、優先順位をつけた中で、慎重に取り組んでいかなければならないということでございます。

それで、回答のとおり、完全給食の実施については、実施する方向で検討する、もう実施できないということではなくて、その辺は、できるだけ、もう実施したいんだということでございます。ただ、御質問の一部負担については、できるだけ子どもたちの親に負担はさせたくないんですが、ただ、場合によっては、可能性としては、ほんとちょっと、まだ集計できていないんですが、その辺ではお願いする場合もあるかもしれません。ですが、できるだけ無償で。

今、約束できないんですよ。令和4年度の議会にもかけていないし、その中で、完全……。できるだけそういうふうな形で考えておりますので、ぜひ、御理解いただきたいと思います。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 副町長の答弁、1年前と同じように、苦しい答弁だったと思いますけど、違う意味での苦しい答弁だったかと。前向きに、積極的にスピード感を持って取り組んでいただけたというようなふうに感じております。

有償なのか、無償かというのは、今後検討されていくということでしたけれど、ぜひ、子育て支援の一つ、またそういうところを充実させると。近隣、完全給食を実施しているのが、ほとんどの自治体はそうなんですけれど、無償でやられているところはないと。一つの子育て支援の大きなポイントに、山北の売りになるのではないかと思うので、その辺も含めて。

1年前の町長の答弁の中で、やっぱり子どもが減っていると。最低でも2クラスにはしたい。でも、子どもの数が減っているのというような回答がありましたけど、やっぱり子育て世代を呼び込むためには、その辺をさらに充実させて、子育てしやすいまちづくりをやっている山北に移住していただく。そういうふうな狙いを持って、取り組んでいただければと思います。

続きまして、回答書のほうで、「メリット・デメリットの洗い出しや」というふうな回答がございましたが、その辺について、具体的に御説明願えますか。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 完全給食化に伴うメリット・デメリットの洗い出しですけども、メリットとしましては、まず、保護者の皆さんの手間がなくなるということが、もうこれがもちろん最大のメリットかと思っています。デメリットですけども、保護者のお話を聞いたところ、食べ残した量が分からなくなってしまうのではないかといったようなこともありました。また、この完全給食を行うに当たりましては、わかば園舎の調理室で作れる場所が、スペースがちょっと確保できないですとか、たくさんの御飯を炊くという器材を置くこともできないといったことも検討と課題となり、購入するしか手はないのではないかと、そういったことも検討させていただきました。

あと、それから食器はどうするのかですとか、その食器を購入するだけではなく、保管して、滅菌もしなくてはいけませんので、そういったことはどうするのかといったことも検討と課題として、検討してまいりました。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 メリット・デメリットについてお聞きしましたが、前回質問したときと同じようなメリット・デメリットを考えられているというふうなことで、やはり1年前に、私も、保護者の朝の一手間を軽減するためにも、また、現在、女性の社会進出等で町も男女共同参画等を推進しているという面も含めて、完全給食実施に向けて取り組むべきだというような質問をさせていただきましたが、前向きに積極的に進められているということで、期待していきたいと思いますけど、来年、令和4年度から完全給食の実施に向けて検討を進めているということで、来年、令和4年度、4月からゼロから15歳の一貫教育保育の実施に向けて動いていると思うので、ちょうどいいタイミングで、完全給食が実施できればいいのかなと思いますけれど、その辺、教育長としては、どういうふうにご考えられていますか。

議 長 教育長。

教 育 長 私の立場としましては、食育という、これもやはり一貫性を持った取組が必要じゃないかなというふうに考えてございます。ですから、それぞれ学校給食の目標というのが七つほど定められてます。それぞれの意義がございませぬ。そういった面で、家庭からの御飯だけですけども、御飯を持参するとい

う、そういうものじゃなくて、みんなで同じものを分かち合って食べる、そういった教育的な意義というのは、非常に大きいものがあるんじゃないかなというふうに思います。ですから、例えば、いろんな食べ物、山北で採れた野菜だとか、いろんなメニューを、こういったものを説明しながら、こういう意味があるんだよとか、こういったものについては、いろんな人が関わって、食べることができるんだよとか、そういった面を、子どもたちの教育の中で、こういったことを示すことは、非常に大事なかなというふうに思っています。

それから、あと、やはり給食というのは、おいしさ、それから、栄養のバランス、そして、温かいものは温かく、そういったものが基本であるというふうに思いますので、そういった面で、福祉課長のほうからも話がありましたように、こういったのをもう一度見直ししようということで、それぞれメリット・デメリットがございますけども、じゃあ、どういう形で、山北町として、今後進めるべきかということで、今、検討しているというところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 前向きな回答をいただきました。

続いて、もう一点、1年前に完全給食実施について質問した際に、完全給食を実施するに当たっては、町内産のお米をぜひ使って、町内循環といえますか、地産地消という部分でやっていく方向を検討していただきたいというふうな御質問をしたときに、町長からもそういったことも考えていかなければいけないというふうなお答えがあったかと思うんですけど、その辺についての、今、検討状況というのをお聞かせ願いたいと思います。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 そうですね。令和4年度からの完全給食の実施に向けて、検討を進めてまいりますと。その中で、地産地消につきましては、とても大切なことだと思いますので、令和4年からの実施に向けた中で、併せて一緒に進めていきたいと思っています。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 期待しておりますので、前向きに検討していただければ、食育とか、完全

給食というただ単に福祉とか、そういったものではなくて、農業振興等にも絡んできますし、経済循環という部分でも、やっぱり効果があると思うので、その辺については、いろいろな連携を含めて、検討を前向きに進めていただきたいと思います。

続きまして、2つ目の質問の再質問に移らせていただきますけれど、いろいろな子育て支援施策を取り組んでおります。回答書の中にもありましたけれど、小児医療費の助成とか、紙おむつ等の助成、これ、始めた頃は、多分実施している自治体は少なく、目に留まったのかとは思いますが、昨今、いろいろな自治体でこのような取組は充実してやられてきている。そういった部分で、やっていますけれど、埋没してしまっているとか、光るものとか、そういったところがないというところで、さらに、山北独自で何か取り組むような、そういう新しい考えというものは何かございますでしょうか。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 確かに、おっしゃるとおり、小児医療費の助成、山北町はいち早く中学校、15歳まで無料化ということを取り組まさせていただきました、そのときには、そういった自治体は少なく、かなりインパクトがあったんじゃないかと思いますが、確かに近隣の市町村でも、それがスタンダードになりつつあるといったところはあるかと思いますが。

そうしますと、これから、どういうふうな子育ての支援事業を展開していくのかということにもなろうかと思いますが、令和4年度から、これは予定でございますが、考えていることでございますが、答弁書にもありますように、放課後児童クラブの負担金について、これまで一律8,000円、例えば、生活保護世帯ですとか、非課税世帯ですとか、そういったことにかかわらず、一律8,000円といったところを、そういったところを加味して、低所得世帯やひとり親世帯の減免制度を設けようじゃないかといったことを、今、検討してまいりました。あと、それから保育園、こども園の町外受託につきまして、公立の山北町民のための保育園、こども園ですから町外受託をしないというわけではないんですが、あまり多いというのもちょっと問題ではないかと思いい、そこを少し、何といたしますか、山北町民の入園待ちを発生させないよう

な、そういった取組もやっていきたいなというふうに考えているところがございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そういったきめ細やかな子育て支援をしていくことで、山北町として、子どもに優しいまちづくりというのがPRしていけるのかなと思います。

別に、私的に、こういうものがあるんじゃないかというのを少し述べさせていただきたいと思いますが、今、こども園、保育園等で使用済みの紙おむつ、これは保護者が持ち帰っております。使用済みおむつを持ち帰る理由としまして、便による体調確認や慣習的なもの、または、自治体の予算的なもので、持ち帰るようになっておりますけれど、首都圏全体では、35%程度の自治体しか持ち帰りをしていないと。神奈川県内にしても、45%の自治体が持ち帰らせていると。逆に言えば、神奈川県内、55%の自治体は園で処分していると。そういった部分で、保護者の負担というのを考えると、紙おむつの持ち帰りではなく、園での処分というのも、今後検討されていくべきかと考えております。

この辺については、検討の余地はありますでしょうか。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 今、御提案いただきましたことにつきましては、これから検討させていただきたいと思います。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 予算が絡むものなので、なかなかすぐにはやれるものではないかと思いますが、保護者の負担を軽減するという意味で、子育て支援にもつながると。また、保護者のニーズ等を確認した上で、実施が可能であれば、前向きに検討していただきたい。

子育て支援につきまして、やはり町として、安心して産み育てられるというのをよく言われていると思いますけれど、妊婦健診のときの受診のときのタクシー代の助成などを行っている自治体もあります。前回ですかね、足柄上病院の産科の休業等で、産科が通うのに遠くなっているといったところで、支援の一つとして、タクシー代の一部補助とか、そういうものも検討していくべきではないかと思いますが、その辺について、どうお考えでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 子育て支援についても、交通費対策と、私、同じなんですけど、一度始めたものは取り下げたくないということを常に思っております。ですから、やはり、やるからにはいろいろなことを検討して、何でもかんでも保護者が望むから、あるいは、確かに、何というんですか、子育て支援について拡充していけば、皆さんにとってはいいことかもしれませんが、やはり全体として、どういったようなことが今現在必要なのか、そういったことを見極めながら、一つ一つそれを加えていきたいというふうに思っておりますので、一度始めたものを利用者が少ないから、あるいは、また、財政的に大変だからやめるということはしたくありませんので、そういった意味では、慎重とは思いますが、そういったような考え方で進めさせていただきたいと思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長の答弁でもありましたけど、一度始めたらやめたくない、そのお気持ちは十分分かりますけれど、それを恐れてやらない、一步踏み出せないというの、またどうかというところもあるんで、その辺は、慎重に前向きに検討していただきたいというふうに思います。

続きまして、提案させていただきたいと思うんですけど、予防接種について、子どもの予防接種について、以前よりは大分定期接種というふうに、国からの指針が出て、取り組んでおられると思うんですけど、まだ未接種の予防接種として、インフルエンザとおたふく風邪予防接種等があります。こういったところで、無償にしろ、定期接種にしろという話ではないですけど、予防接種、打たないより打ったほうがいいでしょうというような考えがあるのであれば、なかなか子育て世帯にとっては、インフルエンザ、子どもさんと2回打つんで、1回2,500円、相場で5,000円、おたふく風邪に関しましては、1回5,000円ぐらいで、2回接種というような形で、お子さんが一人、二人いられますと、出費もかさむというところで、その辺について、補助的なこともやっていくべきではないかと考えますが、その辺については、どのようなお考えがありますか。

議 長 町長。

町 長 予防接種については、基本的にはやっていきたいというふうに思っております。やはりなかなか医療事故、あるいは、どうしてもパーセントにすれば、たとえ0.いくつにしても、やはり予防接種をしたために、何らかの副作用、そういったことが起こることは現実にあります。そういったことを恐れるのがいいのか、あるいは、そうでないほうが、大多数の人がこういったようなコロナのときもそうですけど、そういったようなことがいいのか。社会的に見れば、おそらくそういった予防接種を進めていくほうがいいと。私もそういうふうに思っています。

一方では、やはり個々のお子さんなり、そういったような対象とか、いろいろなものがあって、保護者の方がちょっと心配なさる。これも当然だというふうに思っています。そここのところの兼ね合いだというふうに思っておりますので、そういった意味では、全体的には進めていくべきだというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そうだと、今の答弁は、まさにそのとおりで、定期接種となると、やっぱりリスクがかかってくると。ということで、やっぱり任意のままで補助的なものを導入するというようなところで、保護者の判断で、費用がかかるからちゅうちょするようなことがないように、補助が入って、経済的な負担が減るということで打ちやすくする。最終的には、保護者の判断だとは思いますが、そういった費用負担を考えて、予防接種をよす、よさないというようなことがないように、少しでもきめ細やかな子育て支援というのを目指す上で必要ではないかと感じますので、その辺についても前向きに検討を進めていっていただきたいと。

もう一点、ちょっと確認させてもらうような感じになるんですけど、お子さんが生まれて新生児聴覚検査費用、検査というのがあると思うんですけど、これは任意で全額利用者負担で保険適用ではないということなんですけど、こういったものにも補助を入れるような、そういうことが必要ではないかと考えますけど、その辺について、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

町 長 私のほうから。

議 長 町長。

町 長 すみません。今の直接のお答えではないんですけども、予防接種とか、そういうものの費用負担とか、そういったようなことの中で、基本的には、国とか県とか、そういったような補助メニュー、そういったものが私は基本だろうというふうに思っています。

なぜかといいますと、確かに、例えば、山北町独自で中学生まで医療費の援助をやっております。そういうことで、独自に医療に関して、例えば、予防接種は、山北町は無料にするというようなことをやると、医療機関が何をやっているかという、山北町の患者さんだけをノートに書いて、請求してくるわけです。今、こういったレセプトの中でやっていく中で、非常に事務負担が煩雑になるし、間違いも起こしやすいというところもあります。

ですから、独自でやることは、やらなきゃいけないようなことはやります。しかし、ただ単に、他の町と全く違うような独自のところを、そういった予防接種等について、この予防接種は山北町は無料にしますとか、そういったことをやると、さらに混乱が広がるというふうに、私は思っておりますので、そういった意味では、ある程度、歩調を合わせながら、本当にやるべきことはやっていかなきゃいけないというふうに考えております。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 3歳児聴覚検査ということで、3歳児の健診のときに、先天性、先天的な病気の有無の確認をする検査はしております。

違うんですか。

議 長 いま一度、和田成功議員。

3 番 和 田 すみません。ちょっと誤解があったもので。私がお聞きしたのは、新生児聴覚検査のほうですね。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 すみません。間違いました。そのことにつきましても、今後、検討してまいりたいと思います。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 近隣と歩調を合わせるというのも一つあるかと思いますが、やはり、ただ単に歩調を合わせていて、山北に子育て世帯を呼び込むというのは、ちょっとインフラの関係等で難しいのかなと。そうしたら、やはり子育て支援が

充実している子どもに優しい山北だというのを前面に押し出して、子育て世代の移住を進めていかなければ、町長が目指している最低でも2クラスに必要な子どもの人数というんですかね、そういったものが確保できていけないのかなといった部分で検討を進めていただきたいと思います。その辺について、改めてお伺いします。

議
町

長 町長。

長 ですから、私は、それをやらないということは申してはおりません。あくまでも、今ちょうど18歳以下の5万円のクーポンが900億円ぐらいかかるというようなことが出ておりますけど、それと同じようなことで、現実的に、細かいところで、もし、そういうことをやると、例えば、山北町の医療機関はいいですよ。しかし、そうじゃなくて、お子さんが、あるいは、小田原へ行って、秦野へ行って受診して、その費用を山北町に請求してくるわけですよ。それで、全てがそういうところで、どこの医療機関も大体4月になると、レセプトとか何かの関係で調整して、どこがどうなっているのか。もちろん、例えば、東京なんかへは多分行かないでしょうから、小さいお子さんは。多分、東京のほうは、そういう情報は行かなかつたり、万が一来たときに、調べたりということがあるわけです。

つまり、事務手続の、何というんですか、簡素化ができない、やたらめつたらに複雑になって、それをやるのは、我々、行政の職員ですから、そういったようなことを考えると、やはりそこは慎重に行かなければいけないと。

ただ、こういったことがいいたろうということで、山北町独自でやるということについては、それは必要なものについてはやります。しかし、ただ、いいたろうというような考えだけで果たしていいかどうかということは、もう、例えば、この5町だけでみんな違うわけですよ。ですから、非常に医療に関しての現場サイドのところの中は、私も医師会のほうに1回、そういうことは10年ぐらい前に申し上げましたけど、なかなか調整できないというのが現実です。

ですから、そういったことを含めて、やはりこういったような行政というのは、ある程度、そういった事務手続も簡素化していかなければいけない。そういった意味では、時期を待って、それが今年やらなくても、来年はなり

そうだとか、そういったこともありますから、そういった情報をつかみながら慎重にやっていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長からの答弁で慎重にやっていきたいと。去年の答弁のときのように、慎重に検討していくで進められると同じようにやっていただければと期待しております。

続きまして、3番目の子どもに優しいまちづくりを積極的にPRして、子育て世代を中心に移住定住促進に取り組む必要がという質問の再質問をさせていただきます。

確かに、移住・定住に取り組んでいる中で、新築祝い金でしたり、そういったものをPRしつつ、子育て支援等もPRされているとは思いますが、もっと子育て世代を呼ぶように、子育てに優しいまちづくりとか、山北というのを前面に出した移住促進、ターゲットをもう少し絞り込むというような取組で、かつ、定住対策課だけではなく、福祉とか、そのほか関係部署ともう少し連携を密にして、取り組んでいったほうがいいのではないかと思いますが、その辺について、お考えをお聞かせ願います。

議 長 福祉課長。

福 祉 課 長 そうですね。答弁書にもありますように、現在、子育てや住まいづくりを応援する支援制度という、A4の見開きのパンフレットがあるんですけども、そちらに定住のことも、あと、町ではこういう子育て支援をしていますよというのが載っているものはあるんですけども、そういったところで、連携はもちろんしているんですが。今後、議員のおっしゃられるように、山北町は子育てに優しいんだよということを前面に出したようなPRの仕方というのは、定住もそうですし、福祉課もそうですし、あと、商工観光課や、山北町は自然が多いですから、観光協会や農林課、そういったところも加えて、そういったところが前面に出せるような、パンフレットに限らず、PRの仕方というのは検討していきたいなというふうに思います。

今、どんなことが思い描けるかというのはないんですけども、検討していきたいと思えます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 連携して、今後進めていっていただけるということなんですけど、今、答弁にもありましたけど、パンフレット等を作ってやられているというのは、重々承知しています。

それで、以前からやられていると思うんですけど、SNS等を活用して発信する。これのほうの子育て世代の方は目につきやすいんじゃないか。検索したときに、何か光るもの、ポイントになるようなものがあつたほうのがやっぱり検索しやすいという部分で、子育て支援拡充ないし充実させて、ほかの町ではできないような、山北ならではの山北だけしかできないような、そういった子育て支援があれば、そういったところで検索するところ、している方の目に留まるんじゃないか。発信力であったり、そういったところも含めて、そういったことを、今後、取り組んでいくべきだというふうに考えますけど、その辺については、町長、どうお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、子育てに優しいというようなことで、いろいろなことをやっております。先ほども申し上げましたとおり、一つずつ増やしていきたい。今年は、放課後児童クラブ等の見直しも含めてやっていきたい。あるいは、先ほどの完全給食の件もそうですけど、そういったような、実際に保護者の方がお困りで、また、要望が多いというようなことについては、町のほうで対応していきたいというふうに思っております。

一方で、このPR等について、SNS等で発信するというようなことで、もちろんその方法はありますけども、しかし、一番の実際の広がりを見ますと、例えば、口コミであったり、あるいは、インフルエンサーの方の発信であったり、そういったことのほうがはるかに大きいと。実際見てもらっても、テレビの力とか、そういったので、我々がどんなことをやっても、やっぱり行政が出すには特定のところ、特定のというのは、なかなか難しいところがございます。そういったような意味で、やはりそういったような口コミであるとか、そういったような特定の業界とか、そういったようなところを利用させていただいて、発信をしていくというようなことは、これから考えていけないといけないというふうに思っておりますので、ただ単にホームページや何かでやっても、なかなかこれが見えていただけないというのが現状でござ

いますので、そういったことも含めて、研究していきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今後、発信、発信していくと。インフルエンサーとか、そういったものを活用するのであれば、そういったものを活用してやっていったほうが効果的だというふうに思いますし、町でやるにして、なかなか制約等もあるというふうな感じではありますけれど、今以上にやることは可能だと思うんですね、全然。もっとばえるといったらいい、というのでいいのでしょうか。目に留まるような演出の仕方、写真の使い方、ハッシュタグの使い方とか、いろいろ研究をしていくべきだと思うんですね。そういったところで、民間の人、一般の方、町民等にも協力してもらって、発信、拡散するようにしていけば、より一層、山北の魅力を町外に発信できるのかなというふうに考えております。

そういった部分で、もう少し町としても、真剣にというか、積極的に取り組んでいったほうがいいと考えますけど、その辺については、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、やはり皆さんそれぞれの、特に定住に関しては、移住されたことが、山北町にとって、ここがよかったとかというような方もいらっしゃると思います。だから、そういったような中で、あるいは、例えば、もうお子さんが育ち上がっちゃっている方も移住してきます。あるいは、また、これから移住して、お子さんをお産みになって、そして、また育てていくという方もいらっしゃると思います。そういったような個々の方のやはり住んでいるところ、あるいは自分の家庭環境において、よかったところ、あるいは、よくないところというのは必ず出てくるというふうに思っています。そういったような実体験の中でのいいところ、そういったものが発信していただければよろしいんじゃないかなと、私のほうは考えておりますので、できるだけ、あんまり、何ですか、全体に総合的に網羅しちゃうと、発信力が弱くなる。私はこれがよかったというような発信の仕方のほうが、多分訴える力が強いんじゃないかというふうに思っておりますので、そういったことも含めて、

研究してまいりたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今後も研究を進めていっていただきたいと思います。

最後に、改めて、子育て支援の充実について、今後の計画、町長の思いと
いいですか、そういうものがございましたら、最後にお願いいたします。

議 長 町長。

町 長 私は、子育て支援で、当然、山北町に住んでみたいとかということも必要
だということで、いろんな紙おむつであるとか、いろんな施策をしております
すけども、それ以前に、例えば、もう山北にしかない自然とか、ダムである
とか、湖であるとか、あるいは富士山が見える、様々な、あるいは森林がい
っぱいある。そういったようなことが自然に皆さんに分かっていただく。そ
して、また、何というんですか、よさを実感していただく。そういったよう
なことをもう少し力を入れて発信していきたいと。

ただ単に、こういう施策があるから、山北町いいですよというのは、それ
は、ほかの自治体でもやろうと思えばできちゃうわけですから、山北でなけ
れば味わえないもの、そういったものは山北だけにしかないわけですから、
そういったものの価値観というんですか、そういったものを共用できるよう
な、そんなような子育てというのも必要ではないかというふうに思っており
ます。

そういったようなことで、これからもさらに進めていきたいというふうに
思っております。